

ちようふ環境市民会議

第13回定期総会

議案書

2021.5.16(日) 15時～

議案項目

第1号議案	2020年度事業報告	P. 1
第2号議案	2020年度収支報告	P. 8
第3号議案	2020年度監査報告	P. 9
第4号議案	2021年度事業計画案	P. 9
第5号議案	2021年度予算案	P. 12
第6号議案	次期理事の選任案	P. 13

■第1号議案 2020年度事業報告

○2020年度活動方針

○規約にかかげた活動目的・方針にもとづき、活動を楽しんでいます。

- ・東日本大震災後、都市に住む市民の暮らし方が問われています。暮らしを根本から見直し行動する「私から始めるエコライフ」の活動に引き続き取り組みます。また、新型コロナウイルス感染防止対策など、新たな市民生活への制限に関わる事態も生じてきています。私たちの生活様式の変化を余儀なくされる中、環境にやさしい生活・持続可能な社会をめざした暮らしを考えていきます。
- ・調布市の自然環境をはじめとする「環境」について、環境を考える市民・事業者・団体に向けて活動で得られた情報や知恵を共有できるよう連携して活動していきます。
- ・市民・活動団体・企業等との連携を図るプラットフォームとしての役割を担う上で必要となる、市民向け環境情報の受発信の基地等についても検討していきます。
- ・予算要望活動により、これまでの環境学習交流推進事業委託の他に、前年度に引き続き ①環境基本計画を実効性のある計画とするためのワークショップ運営への協力等の「協働推進事業」②国分寺崖線ウォークイベント事業の業務受託を行います。また引き続き深大寺・佐須地域環境資源管理・活用について、2020年度も運営等への提案等を行っていきます。

また、環境基本計画の中間見直しの委員会、緑の基本計画改定等の委員会での発言等、ちょうふ環境市民会議の役割と責任が大きくなっています。新しく理事も加わり、若い視点を取り入れながら、2021年度もプロジェクト(PJ)ごとに事業実施に取り組みます。

これら多岐にわたる委託事業や自主事業を継続していくプロジェクトチーム(PJ)には、多くの会員のご協力をお願いいたします。

- ・今後も継続して環境保全活動を担う人材確保のため組織運営の再構築についても検討します。

○2020年度活動方針にもとづき活動しました

- ・2020年度は、世界規模のこれまで体験したことのない「新型コロナウイルス感染症」の拡大により、2020年4月7日に発令された緊急事態宣言(5/25解除)、その後の感染拡大(第2波・第3波)により2回目の緊急事態宣言(1/8～3/21)も発令され、さらには4/25から第3回緊急事態宣言が出されました。その影響で私たちの活動にも大きな影響がありました。
- ・一方、ちょうふ環境市民会議が市民団体・事業者・行政と連携をとりながら推進体制を担う市民組織として位置づけられている『調布市環境基本計画』(平成28年度施行2016—2026)では、2019年度と2020年度、「環境基本計画協働推進事業」を市から受託しました。12月に開催されたコロナ禍でのワークショップには環境市民会議メンバーも参加しました。
- ・深大寺・佐須地域環境資源保全・活用事業の受託により2020年度まで3年にわたる暫定使用期間中において、今後の農業公園計画について市との話し合いを重ねました。

- ・『緑の基本計画』も計画の策定委員会に代表が参加し年度末に計画案が承認されました。今年度はコロナ禍の中、対面の会議は2回にとどまり、意見をメールで伝え、市民むけワークショップも開催が中止になるなど異例の中でのとりまとめになりました。
- ・他に、緑と公園課からは「崖線ウォーク事業」の3年目の事業を受託し、昨年の経験を踏まえて、ガイドウォークを「歴史」「生き物」の2コースで実施しました。
- ・2009(平成21)年3月の設立から11年が経ちましたが活動拠点の確保については実現していません。また、長年、前事務局長の故江刺さんとともに事務局を担ってきた鍛冶さんが今年度で辞めるため人材の確保は喫緊の課題です。

1. 組織運営報告

理事会（理事10名 及び監事1名）

- ・定例理事会を年9回開催しました。（その他理事会に変わるメールでの報告配信を行った）
- ・受託事業業務管理については業務ごとに担当理事を決めました。
- ・行政との懇談会（環境政策課及び緑と公園課）は1回行いました。
- ・環境基本計画協働推進の進め方や、深大寺・佐須の農業公園予定地に関する意見交換などは懇談会とは別途話し合いの場を設けました。

運営会議（ちょうふ環境市民会議会員）

今年度はコロナの影響で運営会議の開催はしませんでした。

総会

第12回定期総会はコロナ禍での6月28日、たづくりみんなの広場に安部代表理事/岡部副代表理事/里副代表理事/鍛冶（事務局）の4人が集まり、ネットによる書面議決の確認をしました。会員からの質問もなく残念ながら調布市の環境政策、及びちょうふ環境市民会議への関心が薄れているのが現状です。

事務局（事務局長不在 / 局員1 / その他 会計1）

2020(令和2)年度事業計画の年間進行管理を行いました。理事会議題案の作成や資料準備、議事録、個人会員・団体会員に対する連絡、及び行政との連絡調整など、また会計業務（受託会計含む）事務一切を担当しました。

会員動向 【2020年度末 会員数】（ ）内は昨年度実績

個人会員：47（52） 団体会員：14（13） 法人会員：5（5） / サポート会員：12（12）

2. 事業報告

<自主事業>

（1）交流事業

- ①雑木林連絡会（担当理事：安部・大村）

例年どおり年間4回の連絡会（安全講習会を含む）を開催する予定でしたが、コロナ禍の影響で8月4日の連絡会と12月12日の安全講習会のみで開催に留まりました。連絡会では緑地内に用具倉庫を設置してほしいとの要望、保全活動とコロナ対策、ナラ枯れの状況などについて意見・情報の交換を行いました。安全講習会は佐須ふれあいの家（座学）とカニ山（実習）で実施。とくに健全な雑木林の在り方と、下草（ササ）刈り、低木の伐採の作業実技について学びました。

また環境市民会議の企画運営による「調布がいせんウォーク 2020」にも実行委員会の段階から連絡会の保全活動団体が参加し、当日もスタッフの中心となって協力しました。

紙媒体の「調布の自然だより」が昨年1月に終刊となったのに伴い、2月から環境市民会議ホームページに「〇月の雑木林」を連載しています。連絡会メンバーの4団体が毎月、記事と写真を投稿。広報・情報交換・記録の場として定着してきました。

②イベント参加・活動PR

・アースデイ in 調布 2020（担当理事：紺野）

10/17(土)14:00から「アースデイ in 調布」のYoutubeチャンネルにて開催。コロナ感染拡大防止の為に日程を変更し開催に向けて努力しましたが、残念ながら参加団体も減少する中、リモートで団体紹介をしました。今年度の開催も未定です。

・調布市主催「環境フェア」（担当理事：里）

コロナ禍により6/6（土）開催予定は中止となりました。

・多摩川自然情報館祭り（担当理事：鍛冶）

コロナ禍により開催中止

（2）活動推進

コロナ禍によりイベントなどは行いませんでした。

（3）広報事業（担当：事務局）

・ホームページ（ブログ） HP基本管理1名（委託）。

4つの雑木林保全団体が毎月作業報告やフィールドのようすを写真と共に掲載しています。

その他、講座やイベントの募集時にはチラシを掲載し、申込フォームを設定しました。

アースデイ用に「ちょうふ環境市民会議」を紹介する動画を作成しましたが、コロナ禍でもあり環境市民会議そのもののPRはあまりできませんでした。

（4）調査研究

今年度はコロナ禍の中、実施できませんでした。

<受託事業>

（1）雑木林ボランティア講座運営事業（担当理事：里・中原）

6回の講座開催を企画しましたが、第1回の緊急事態宣言の影響を受けスケジュール全般の

実施期日の延期等、変更を余儀なくされました。

当初計画と実績

①第1回目講座開始予定を5月16日から7月18日に順延実施、第6回まとめ講座はバスの利用ができず各樹林地の見学を取りやめワークショップのみとしたが第2回緊急事態宣言が出されたことで1月30日は已む無く中止、代替事業としてアンケート調査の実施に変更した。

②募集

年度初めの4月の市報に掲載+チラシの配布に加えて市民会議や加盟団体のHP等によるPRや受講生OBにも拡散を依頼した。

③申込受付方法を電子化中心に変更

従前は環境政策課への電話及びFAXによる受付方法をとっていたが業務の効率化、連絡ミス防止等を図るべく“市民会議のHP内にQRコードを設け”電子受付に変更した。次年度以降もこの方法で実施したい。

☆全受講者数は例年より少な目でしたが講座終了後「カニ山の会」への参加者が3名ありました。引き続き講座を通じて受講生の参加意欲が増すように努めていきます。

(2) 環境保全団体・市民の交流事業 (担当理事：石川・磯邊・鍛冶・安部)

8月15日(土) 午後2時～午後4時 (開場1時半) 先着35名まで

調布市文化会館たづくり 8F映像シアター

講演会タイトル **嫌われ者だけど君が好き** ～すばらしき生物多様性～

◎ゴキブリから学ぶ 似たりよったり 講師：石川 和宏氏 (ELFIN)

◎と、生きる ～野川の現在～ 講師：磯邊 隆氏(野川の学校代表)

司会は水辺の楽校代表 井口 中氏

環境保全への取り組みへの理解、推進を図るため市内における環境保全団体や市民の交流を図るためのイベントです。今回は例年と違い、コロナ禍での交流ということで、動画配信により生物多様性について一般の方々(子ども含む)に興味を持って考えてもらう内容を配信しました。直接的な交流はできませんでしたが、今まで川の生き物や昆虫に興味がなかった層にも見てもらうことが出来、感想を寄せてもらう機会になりました。

事前告知はチラシにて行い、ちょうふネットテレビのYoutubeチャンネル上で公開、4/20現在、どちらも100回を超える視聴回数になっています。

(3) 自然環境活用事業 (担当理事：鍛冶・大村・安部)

もりのちず/カニ山編 はカニ山と呼ばれる深大寺自然広場周辺の崖線・谷戸・泉の説明と四季折々の動植物の紹介を載せています。度重なる校正を経て9月に500部印刷、まず野草園に配布しました。

2016年に制作した「もりのちず 入間町・若葉町編」は、崖線樹林や保全活動をする市民団体のガイドとして好評で、昨年度は第3版を発行しました。隣接地の宅地開発等によって変化のあった樹林の記事・写真を更新したほか、4年間に宅地等に変った農地を現地確認し、地図に反映させました。

両マップは今後も小学校への配布や環境関連イベント時に配布をし、崖線樹林への理解を深めていきます。

(4) 深大寺・佐須地域環境資源管理・活用委託事業 (担当理事：安部・山本・紺野・鍛冶)

公有地化された深大寺・佐須公有地について環境資源保全活用の3年間の暫定管理を受託しました。市民会議が受託した600㎡の日常的な管理については、NPO法人東京あぐりの受託管理用地とともに、理事が仲介して、肥培管理や下草刈り、種まき・植え付け、栽培、収穫等の作業を共同で行いました。5月30日には、NPO法人東京あぐりの受託事業である田んぼの田植えのワークショップを共催、7月18日のジャガイモ掘りは雨のため中止、12月2日は在来植物とハナバチの勉強会をしました。11月29日実施の2021崖線ウォークのイベントでは、コースに管理地の見学を付け加え、収穫した里芋とハヤトウリを配布し参加者に喜ばれました。

近隣農家の方々にもアドバイスを受けるなど地域の情報交換等も頻繁に行うことができました。メンバーの連絡にはLINEを活用し、作業や畑の様子を随時発信しました。暫定管理後の畑の活用については、市の方針が定まらない中、市民会議と市との懇談会での話し合いを重ねました。

(5) 調布市環境基本計画協働推事業

1. 環境リーダー等育成のための仕組みづくりの検討結果に基づく環境講座の運営

(担当理事：大村・鍛冶・安部・岡部)

一昨年度の環境講座「さよなら『使いすて』生活」は環境活動の担い手の「すそ野を広げる」ことを目指したが、受講者が高年齢層や環境意識の高い層に偏る傾向がありました。そうした反省を踏まえ、昨年度は小学生とその保護者が再生可能エネルギーを学ぶ体験型ワークショップ「環境講座2020 自然のチカラで電気をつくろう」(全2回講座)を実施しました。親子がともに楽しく学び、作業することを通じて、今の世代と未来世代が調布と地球環境への意識を高め、暮らしの中の行動につなげる機会とするのがねらいです。

講師は、多摩市立小学校の総合学習授業で小型発電装置の製作指導の実績がある、市民ボランティアの小林昭一氏。企画・運営スタッフとして、市民会議の法人会員である(一社)えねこや・(一社)調布未来のエネルギー協議会の協力を得ました。

受講者は市内在住または在学の小学校3年～6年生とその保護者とし、合計約20名(10組)を募集。小学生13名、保護者10名(2回の延べ受講者44名)が受講しました。

新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が5月下旬に解除されたのに伴い、秋に実施することを決定。実際には、感染者が再び増加するなかでの開催となりましたが、「調布市公共施設の開館・利用における感染拡大防止ガイドライン」に基づき、感染防止に努めました。

第1回 風力発電装置の工作と体験／移動式えねこや見学など

11月15日(日) 13:30～16:30

実施場所：染地ふれあいの家

受講者：22名(小学生13名 保護者9名)

開講に当たり、短いレクチャーで地球環境の変化を示して講座の趣旨を説明。

制作した風車（発電装置）を屋上に設置して、実際に発電できることを確認。

第2回 水力発電装置の工作と体験／皆さんの家でできる断熱の工夫

11月22日（日） 9:30～12:30

実施場所：佐須ふれあいの家

受講者：22名（小学生12名 保護者10名）

制作した水車（発電装置）を佐須用水に設置して、実際に発電できることを確認。

補足：「イルミネーション RE100」について

本講座で発電・蓄電した再エネ電気による年末イルミネーション点灯をトリエ京王調布に提案。同社が主催、同社が管理運営する「てつみち」を会場として、12月12日（土）に実施しました。（一社）えねこやと（一社）調布未来のエネルギー協議会が企画・運営を担当。本講座のワークショップで小学生が描いたイラストを基に、市内在住のアーティスト・山田はる子さんがイルミネーションをデザイン。

【成果】

本講座のねらい「親子がともに楽しく学び、作業することを通じて、今の世代と未来世代が調布と地球環境への意識を高め、暮らしの中の行動につなげる機会とする」は、ほぼ達成できたと思われま。

- ①「参加型・ワークショップ型」の講座にしたことで、受講者が積極的にとりくみ、楽しんだ。自作の風車や水車が発電する様子に、子どもも大人も目を輝かせていた。
- ②「移動式えねこや」を実際に見たり、「断熱ボックス」「電気器具の使用電力調べ」を体験することで、再エネの可能性・省エネや断熱の大切さを受講者が実感できた。

【課題】

- ①ノウハウの蓄積・記録・共有が必要

この講座を持続・発展させるためには、講師にあまり頼らず、スタッフが準備作業から設置までを担えるようにすることが望ましい。昨年度は環境市民会議理事が講座内容からイルミネーション点灯までを動画で記録、YouTubeにアップした。広報宣伝のためだけでなく、ノウハウ共有のためにも記録が必要。

- ②「脱プラスチック」の風車・水車を

佐須の屋敷林や国分寺崖線樹林に生える竹などを活かす工夫をし、調布の緑の大切さを知る機会にもしたい。

2. 調布市環境基本計画の見直し及び市民ワークショップ実施の支援（担当理事：岡部）

基本計画の中間見直しの為、調布市環境基本計画等改訂委員会で検討が行われました。改訂委員会は学識経験者・事業者・東京都職員・調布市職員及び調布市民2名が加わり、調布市民の1名としてちょうふ環境市民会議から参加。

改訂検討の中で市民ワークショップが実施され、この運営支援をちょうふ環境市民会議が担い10月24日に行われました。ワークショップでは「里山環境の保全」「ストップ地球温暖化」「環境保全活動の体験」をテーマに市民23名が参加し、多くの意見が出されました。

このワークショップおよびパブリックコメント等で出された意見が反映され、見直された調布市環境基本計画および新たな調布市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）がまとめられました。

（7）国分寺崖線ウォークイベント事業

（担当理事：大村・安部・鍛冶・磯邊）

国分寺崖線の保全活動をひろく市民に周知し、人材育成と環境教育を目的として昨年度と同様に事業が採択され、11月29日（日）9時～14時に快晴の中実施しました。

雑木林連絡会のメンバーを中心に企画運営のための7回の実行委員会の他、実踏やスタッフ説明会等を開催し「安全確保」を重点にしたスタッフ配置で実施しました。実行委員会での検討の結果、昨年と同様、仙川駅前公園からカニ山までとし、途中（仮）農業公園予定地に立ち寄るコースとしました。コースは①約8.3kmのコースを自由に歩く、②ガイドツアー付きで、歴史コースと生き物コースの2コースに分かれて歩く、の3通りを設定し、受付時間は8時半から9時半まで、到着は14時までの設定でしたがカニ山ゴール地点には13時前までに全員が到着、13時半解散しました。

受付会場の仙川駅前公園では、受付テントを用意し、参加者への目印にしました。また、実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策のため、スタッフもフェイスシールド着用、参加者にはマスク着用、手指のアルコール消毒、事前に検温をしてもらい、当日も一人ずつ非接触体温計で検温、体調不良でないかどうかの確認を行いました。

参加者は大人70人、小学生12人、幼児1人の合計83人でした。4歳から70代までと幅広い年代の参加で男女比はほぼ半々でした。ガイドウォークは歴史コース15人（大人14、小学生1）、生き物コース13人（6家族大人8、小学生5）でした。生き物コースは家族連れの参加が多数でした。

申し込み受付は、市報は11月5日号掲載、市報・チラシ・ポスターにはQRコードを掲示、11月1日よりWeb上で申し込みフォームに記入できる形式にし、受け付けをしました。定員80人に対し95人の申し込みがありガイド付きコースは抽選になりました。抽選からはずれた人には自由ウォーキングに登録してもらい、申し込み締め切り直前の15日には受付を終了しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大の中、市主催の他多くのイベントが中止になる中で開催となりました。11月中旬以降は感染者数も拡大し、実施すべきか実行委員会でも直前まで検討することになりました。調布市からは「事前にコロナ対策への準備をして」との注意もあり、つつじヶ丘公園では紙コップを準備して各自で受け取る、カニ山においても飲み物汁物の提供は中止し焼き芋と焼きマシュマロを各自受け取るように工夫するなど例年とは異なる対応をとり、結果無事故で安全に実施することができました。

参加者からの感想として、市民が自然に親しむ機会となったことや国分寺崖線の成り立ちや地形、文化的・歴史的背景、保全活動の様子、生き物のことがよくわかったなど、高い評価が得られ、当初の目的にかなった事業となりました。

*上記（1）～（7）の受託事業は担当理事を決めプロジェクト方式で運営しました。

■第2号議案 2020年度収支報告

[自2020年4月1日 至2021年3月31日]

単位：円

			予算	決算額	
収入	活動準備金		792,585	792,585	前年度繰越金
	会費	正会員 個人	50,000	51,000	
		正会員 団体	13,000	13,000	
		正会員 法人	15,000	12,000	
		サポーター 個人	5,000	5,500	
		小計	83,000	81,500	
	事業	自主事業	15,000	0	コロナ感染拡大のため集合イベント中止
		受託事業	2,076,360	2,076,360	環境学習事業/基本計画検討事業/深佐須活用事業 産線ウォーク
		小計	2,091,360	2,076,360	
	寄付金		200,000	256,045	受託事業関連:150,139
	雑収入		0	4	利子
		収入合計	3,166,945	3,206,494	
支出	事業費	自主事業			
		交流事業費	30,000	17,000	アースデイ/ 雑木林連絡会
		活動推進事業費	50,000	0	コロナ感染拡大のため集合イベント中止
		広報事業費	100,000	67,784	HP維持管理 ネットメイン
		調査研究・学習費	20,000	10,000	データ収集管理
			200,000	94,784	
		受託事業	2,076,360	2,076,360	環境学習事業/基本計画検討事業/深佐須活用事業/ 産線ウォーク 事務局人件費216,000含む
		小計	2,276,360	2,171,144	
	管理費	旅費交通費	25,000	27,670	理事会・懇談会交通費
		会議費	6,000	6,440	総会・理事会資料代・リモート会議運営
		通信費	2,000	740	郵送代
		事務用品・消耗品	100,000	33,136	
		雑費	30,000	0	
		事務局人件費	41,000	44,000	会計 メールリスト管理
		小計	204,000	111,986	
		支出合計	2,480,360	2,283,130	
特別	記録誌積立		5,000	5,000	
会計	什器備品積立(カメラ等電子機器)		10,000	10,000	
		小計	15,000	15,000	
次年度活動準備金			671,585	908,364	
特別会計積立金累計					
		2019年度まで	2020年度積立	累計	
記録誌積立		35,000	5,000	40,000	
什器備品積立		45,000	10,000	55,000	

■第3号議案 2020年度監査報告

2021年4月14日、会計担当理事の立ち会いのもと、監査を行いました。

1. 2020年度収支報告に相違はありません。
1. 領収書等証票類に間違いはありません。
1. 業務執行は適切に行われています。

2021年4月14日

監事 赤川 忠明

■第4号議案 2021年度活動方針事業計画（案）

○規約にかかげた活動目的・方針にもとづき、活動を楽しく行います。

- ・東日本大震災後、都市に住む市民の暮らし方が問われています。暮らしを根本から見直し行動する「私から始めるエコライフ」の活動に引き続き取り組みます。また、新型コロナウイルス感染防止対策など、新たな市民生活への制限に関わる事態も生じてきています。私たちの生活様式の変化を余儀なくされる中、環境にやさしい生活・持続可能な社会をめざした暮らしを考えていきます。
- ・調布市の自然環境をはじめとする「環境」について、環境を考える市民・事業者・団体に向けて活動で得られた情報や知恵を共有できるよう連携して活動していきます。
- ・市民・活動団体・企業等との連携を図るプラットフォームとしての役割を担う上で必要となる、市民向け環境情報の受発信の基地等についても検討していきます。
- ・予算要望活動により、これまでの環境学習交流推進事業委託の他に、前年度に引き続き ①環境基本計画を実効性のある計画とするための環境学習のための講座開催 ②国分寺崖線ウォークイベント事業の業務受託を行います。

また、環境基本計画の中間見直しを行うなかで、ちょうふ環境市民会議が市民との協働の実践を実質的に担う位置付けは変わらず、その役割と責任が大きくなっています。新しい理事の参加により多様で柔軟な視点を取り入れながら、2021年度もプロジェクト(PJ)ごとに事業実施に取り組みます。

これら多岐にわたる受託事業や自主事業を継続していくプロジェクトチーム(PJ)には、多くの会員のご協力をお願いいたします。

- ・今後も継続して環境保全活動を担う人材確保のため組織運営の再構築についても検討します。

※ 「第13回定期総会」は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のためメール配信により書面議決とさせていただきます。

1. 組織運営

理事会（新理事1名含む理事9名 及び監事1名）

- ・定例理事会の開催。
- ・行政との懇談会（環境政策課及び緑と公園課）では市民ならではの企画を活かした事業提案や行政に対する要望等について話し合いをします。行政施策への提言も行います。

運営会議（環境市民会議会員）

理事以外の会員の意見を取り入れる場として運営会議を開きます。

総会

年1回開催。

事務局（事務局員不在・会計1名）

行政との窓口、その他事務一切を担える方を募集しています。

<自主事業>

（1）交流事業

- ・コーディネート活動（雑木林連絡会事務局 その他活動支援など）

（2）活動推進事業

- ・前年度はコロナ禍のため子ども対象の環境学習等ができませんでしたが、今年度は対応策に気を配り子ども対象の環境学習イベントを開催できればと考えています。

（3）広報事業

- ・SNS（Facebook以外にもTwitter、Instagramも連動させる？）をベースとした広報活動。年に2回程度のタイミングでHPに記事を落とし込む。環境市民会議のページのみならず、Facebook調布交流会等、他のグループにも時折発信し、存在をアピールします。

それにより若い新規会員の獲得を目標にします。MLも継続。

またイベントごとにYoutubeを配信予定。

「ちょうふの自然だより」の冊子化は継続します。

（4）調査研究活動（学習会他）

未定

（5）提言活動

- ・環境基本計画の実施状況等のみならず、環境全般について会員皆がアンテナを高くし、得た情報の中から課題となる事項を取り上げ政策提言等行います。
- ・農業公園計画に関しては継続して提言・要望を行います。

<受託事業>

(1) 雑木林ボランティア講座運営事業 (担当理事：里・中原)

○新型コロナ感染禍にあり感染防止策を図りつつ全講座6回実施する。

初回開講を6月19日とした講座カリキュラムで以降も実施計予定。

○4月5日号の市報に募集掲載し・チラシ・ポスターを作成配布のほか環境市民会議HP等での講座PRを行い拡散依頼。

受付は4月19日～5月21日までとして市民会議HPにて実施

(2) 環境保全団体・市民の交流事業 (担当理事：磯邊・児島)

コロナ禍ということを鑑み、オンライン又はオープンスペースでの交流会を予定しています。環境保全団体同士、コロナ禍でどのように活動しているのか、どんな問題を抱えているのかを互いに共有し、解決に向けてのアクションをとれるような事業を目指します。

(3) 自然環境活用事業 (担当理事：安部・里)

生物多様性に富んだ自然環境を活用した環境学習を推進するため、子ども及び一般市民を対象とした事業を2回程度企画・実施します。

(4) 環境リーダー等育成講座企画運営事業 (担当理事：大村)

新型コロナウイルス感染症の終息が見通せず、夏の東京オリンピックも不確定要素があることから、次のような枠組みで検討を進めていきます。

①実施時期は昨年度と同じ11月。

②昨年度の「自然のチカラで電気をつくろう」(全2回講座)とほぼ同じ、小学生とその保護者が再生可能エネルギーや省エネについて楽しく学べる、体験型ワークショップとする。

③企画・運営には(一社)えねこや、(一社)調布未来のエネルギー協議会の協力を得て、昨年度の成果と課題を踏まえ、具体的内容を検討する。

(5) 国分寺崖線ウォーク (担当理事：安部・児島・磯邊・大村)

実行委員会による企画運営で12月上旬に実施予定です。コース設定等、実行委員会で検討していきます。

■第5号議案 2021年度予算(案)

[自2021年4月1日 至 2022年3月31日] 単位: 円

			前年決算額	21年予算	内訳	
収入	活動準備金		792,585	908,364	前年度繰越金	
	会費	正会員 個人	51,000	52,000		
		正会員 団体	13,000	13,000		
		正会員 法人	12,000	12,000		
		サポーター 個人	5,500	6,000		
		小計	81,500	83,000		
	事業	自主事業	0	15,000	情報館まつり アースディ	
		受託事業	1,798,000	1,798,000	環境学習/968 環境講座/445 ウォーク/385	
		小計	1,798,000	1,813,000		
	寄付金		256,045	200,000		
	雑収入		4	0		
		収入合計	2,928,134	3,004,364		
支出	事業費	自主事業	交流事業費	17,000	30,000	情報館まつり /アースディ 雑木林連絡会
			活動推進事業費	0	50,000	子供向けイベントなど2回開催
			広報事業費	67,784	100,000	HP維持管理 広報活動 ネットメイン
			調査研究費	10,000	20,000	データ収集 学習事業
				94,784	200,000	
		受託事業		1,798,000	1,798,000	事務局人件費216,000含む(18000×12)
		小計	1,892,784	1,998,000		
	管理費	旅費交通費	27,670	28,000	理事会出席交通費	
		会議費	6,440	7,000	総会関連 理事会資料等	
		通信費	740	2,000	資料郵送等	
		事務用品・消耗品	33,136	40,000		
		雑費	0	20,000		
		事務局人件費	44,000	44,000	会計 M/S管理	
		小計	111,986	141,000		
		支出合計	2,004,770	2,139,000		
		差引(収入-支出)	923,364	865,364		
特別	記録誌積立		5,000	5,000		
会計	什器備品積立		10,000	10,000		
		小計	15,000	15,000		
	次年度活動準備金		908,364	850,364		

■第6号議案 理事選任のため承認の件

役員任期の改選期のため、新理事を一人むかえるとともに監事が交代となりました。

新理事 児島 秀樹

◇理事・監事は下記の通り含め全10名体制となります。

全理事・監事の任期は2023年に開催される第15回定期総会までとします。

記

安部 宝根（代表）／ 岡部 和平（副代表）／ 里 厚雄（副代表）／ 紺野 裕子 ／ 石川 和宏 ／
中原 彰子(会計) ／ 大村 哲夫 ／ 磯邊 隆 ／ 児島 秀樹／

監事 杉山 典子